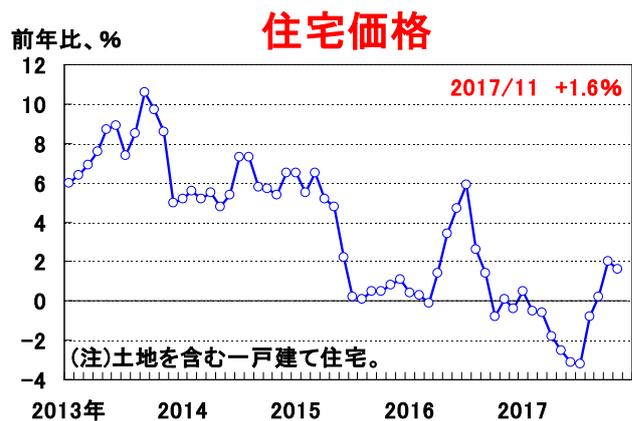
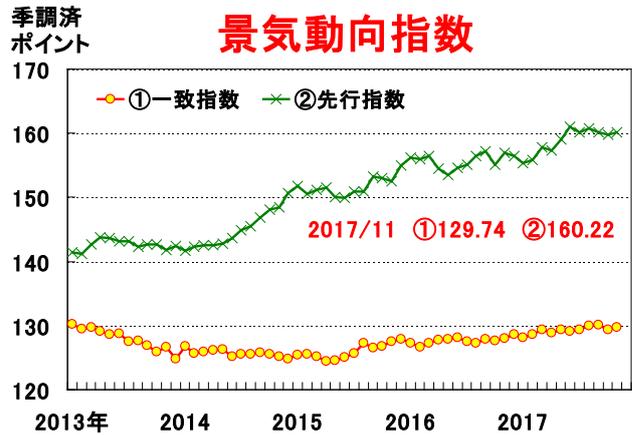
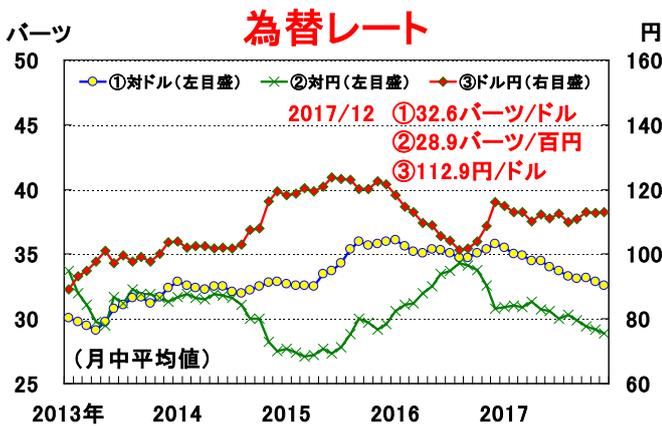
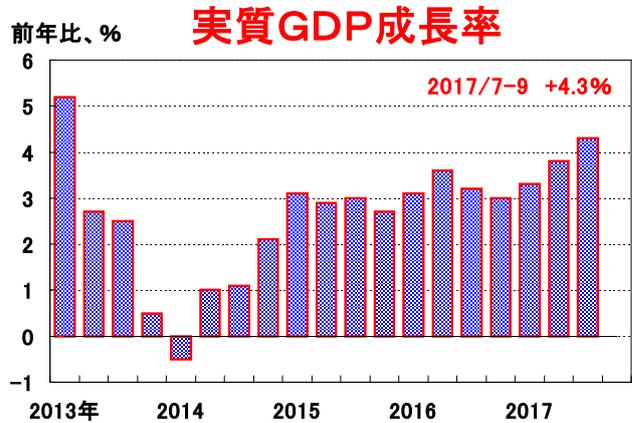
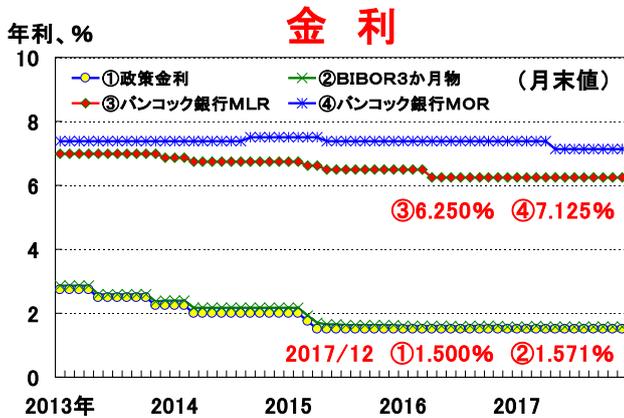


# グラフで見るタイ経済 2018年1月号(No. 103)

タイ景気は回復基調にある。2017年11月の経済指標をみると、個人消費指数は前月比+0.2%と、外国人観光客の消費増加や耐久財消費の持ち直しもあり、上昇に転じた。企業部門では、輸出が前年比+13.4%と2か月連続で増勢を強め、工業生産指数も前月比+4.1%と再び上昇した。また、主力産業の自動車の生産台数は前年比+11.5%と、輸出向けの持ち直しと国内販売向けの増勢拡大を背景に、前月(同+1.5%)に比べて伸びが大きく高まった。こうした中、民間投資指数は前月比+0.4%と上昇し、22か月ぶりの高水準となった。



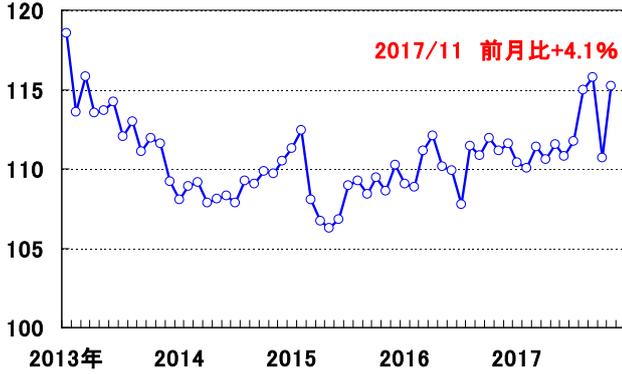
**【今月のトピック:タイ中央銀行が経済見通しを上方修正】** 12月20日の金融政策委員会で、タイ中央銀行は政策金利の据え置きを決定し、成長率の見通しを上方修正した。2017年と2018年の実質経済成長率は、ともに3.8%から3.9%へ引き上げられた。世界的な景気回復により主要輸出先である東南アジア地域の景気が拡大していることに加え、中国からの入国者増により観光業も好調を維持することが見込まれている。民間需要の着実な増加に加えて、タイ北東部の高速鉄道計画や首都バンコクでの鉄道投資の拡充などの政府プロジェクトも成長率の押し上げ要因になるとみられている。

(出所) タイ中央銀行、タイ国家経済社会開発委員会 (NESDB)、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

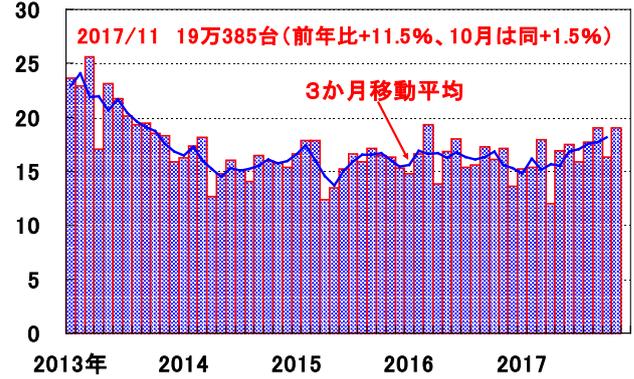
季調済  
2000年=100

### 工業生産指数

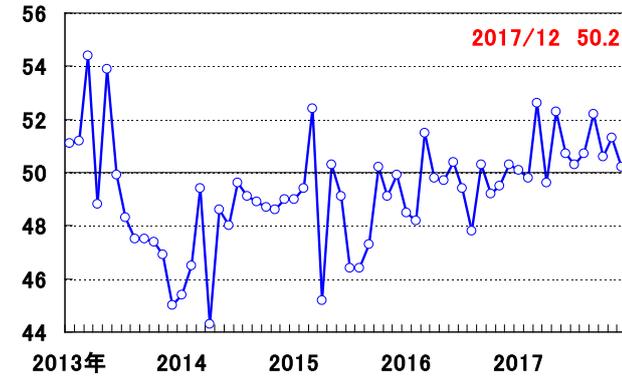


万台

### 自動車生産台数

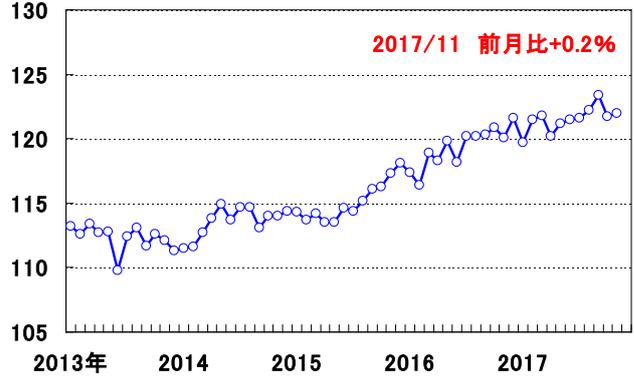


中立水準=50 企業景況指数(BSI)



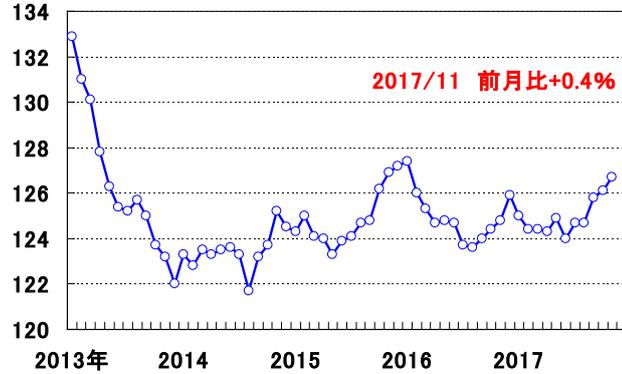
季調済  
2000年=100

### 個人消費指数



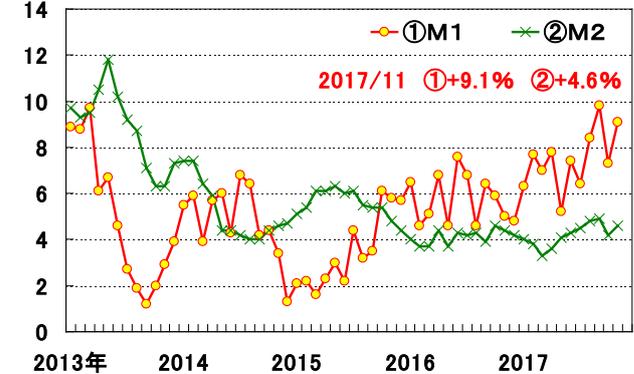
季調済  
2010年=100

### 民間投資指数



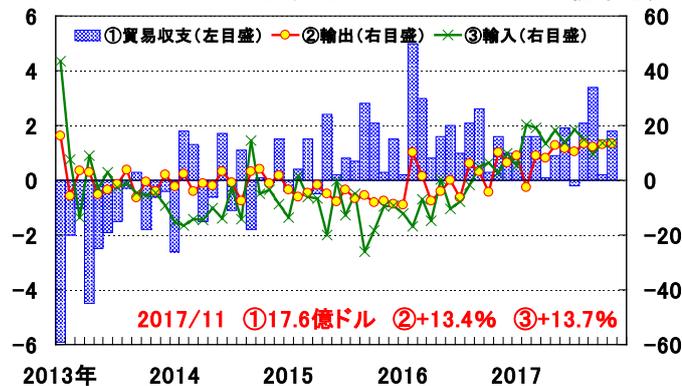
前年比、%

### マネーサプライ



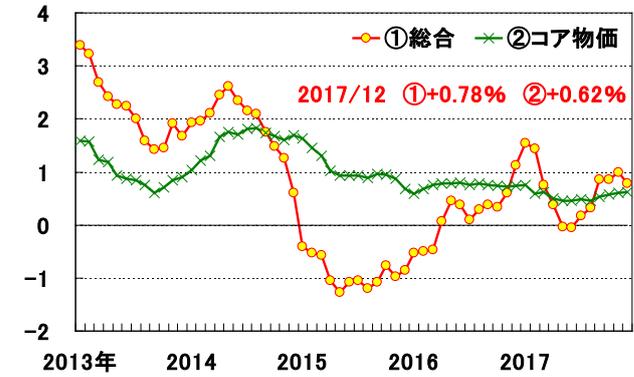
10億ドル

### 貿易収支



前年比、%

### 消費者物価指数



(出所) タイ工業省、タイ中央銀行、タイ国家統計局、タイ工業連盟 (F T I)

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用にはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。